

(総合問題 4)

次の事例を読んで、問題 123 から問題 125 までについて答えなさい。

〔事 例〕

Qさん（70歳、女性、要介護2）は、夫（68歳）と二人暮らしをしている。6か月前に脳梗塞（cerebral infarction）を発症し、医療機関と介護老人保健施設を経て、2か月前に在宅復帰した。もともと腰部脊柱管狭窄症（ようぶ せきちゅうかんきょうさくしやう lumbar spinal canal stenosis）があり、脳梗塞（cerebral infarction）の後遺症により右片麻痺（みぎかた まひ）が生じたことで、さらに歩行が困難になったほか、運動性失語がある。

現在、ベッドからの立ち上がりは手すりを使って自分で行っている。T字杖（じ づえ）を使用して自宅内を移動しているが、ふらつくことがあるため、夫が付き添っているものの、声かけのタイミングが合わずに転倒しそうになることがある。また、夫とスムーズにコミュニケーションをとることができず、時々イライラしたり、泣き出したりすることもある。

Qさんは現在、訪問介護（ホームヘルプサービス）の身体介護を週2回利用して、自宅の浴室で入浴介護を受けている。浴室までは訪問介護員（ホームヘルパー）が付き添っている。

このほか、訪問介護員（ホームヘルパー）は、夫からQさんの日常生活の様子を聞き取ったり、Qさんとのコミュニケーションや介護に関する相談を受けたりしている。

問題 123 介護福祉職が夫に対して行う、Qさんの歩行の見守りや声かけに関する助言の内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Qさんの左側後方に位置する。
- 2 Qさんの右側前方に位置する。
- 3 階段を昇るときは、「杖→左下肢→右下肢」の順に出すように声をかける。
- 4 階段を降りるときは、「杖→左下肢→右下肢」の順に出すように声をかける。
- 5 階段を降りるときは、「左下肢→杖→右下肢」の順に出すように声をかける。

問題 124 Qさんとコミュニケーションをとる際の工夫に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 開かれた質問を多用する。
- 2 話し手の口の形が分かるように、ゆっくりと話す。
- 3 五十音表でひらがなを指さしてもらう。
- 4 聞き取れなかった言葉を、もう一度ゆっくりと話してもらう。
- 5 伝えたい内容をイラストで表示したノートを指さしてもらう。

問題 125 Qさんは、歩行時、腰部から下肢にかけて、しばしば強い痛みを感じている。
これに伴う歩行の特徴として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 失調性歩行
- 2 加速歩行
- 3 かん けつ せい は こう 間欠性跛行
- 4 けい せい ほ こう 痙性歩行
- 5 小刻み歩行